



## 中国で新しいオヴィラプトル科恐竜の発見： アジア恐竜の古地理学における意義

### 研究成果のポイント

- ・ 中国南部の江西省に分布する、白亜紀末（カンパニアン～マーストリヒチアン：約 8360～6600 万年前）の南雄層（Nanxiong Formation）から、新属新種のオヴィラプトル科を発見し、これをフアナンサウルス・ガンジョウエンシス *Huanansaurus ganzhouensis* と命名した。
- ・ 中国南部（江西省および広東省）はオヴィラプトル科が世界で最も多様化し栄えた地域である。
- ・ フアナンサウルスは、これらのどのオヴィラプトル科にも近縁ではなく、そこから 3000km 北に位置するモンゴルのシチパチに近縁である。
- ・ 中国南部のオヴィラプトル科 7 属は、3つのグループに分かれ、食性を変えることで同じ地域に棲んでいても競争を最小限にし、多様化した可能性が考えられる。
- ・ オヴィラプトル科は、白亜紀末（カンパニアン～マーストリヒチアン）になると、食性を微妙に調整することにより、多様化を成功させ、アジア広範囲に生息ができた。

### 論文発表の概要

研究論文名：A new oviraptorid dinosaur (Dinosauria: Oviraptorosauria) from the Late Cretaceous of southern China and its paleobiogeographical implications (中国南部の白亜紀後期から発見された新しいオヴィラプトル科とその古生物地理学における意義)

著者： Junchang Lü (中国科学院地質研究所), Hanyong Pu (中国河南省地質学博物館), **小林快次** (北海道大学総合博物館), Li Xu (中国河南省地質学博物館), Huali Chang (中国河南省地質学博物館), Yuhua Shang (中国河南省地質学博物館), Di Liu (中国河南省地質学博物館), Yuong-Nam Lee (韓国地質資源研究院), Martin Kunderát (スウェーデン, ウプサラ大学) & Gaizhi Shen (中国科学院地質研究所)

公表雑誌： *Scientific Reports* (Nature Publishing Group)

公表日： 日本時間（現地時間）2015年7月2日（木）午後10時（英国時間 7月2日 午後2時）

## 研究成果の概要

オヴィラプトル科の恐竜は、羽毛も生やした吻部（鼻先）が短く異質な頭の形をした獣脚類恐竜です。この科に属す多くのオヴィラプトル科は、歯が無くクチバシを持っています。大きさはニワトリ（1m弱）くらいから乗り物のバス（8m）くらいの大きさまで多様です。

中国南部の江西省に分布する、白亜紀末（カンパニアン～マーストリヒチアン：約 8360～6600 万年前）の南雄層（Nanxiong Formation）は、これまでも多くの恐竜化石が発見されており、世界から注目されています。今まで知られている恐竜化石には、竜脚類や獣脚類があります。その中でも獣脚類ティラノサウルス科のチアンジョウサウルス *Qianzhousaurus* が有名ですが、他にも4属のオヴィラプトル科（バンジ *Banji*, ガンジョウサウルス *Ganzhousaurus*, ジアングシサウルス *Jiangxisaurus*, ナンカンギア *Nankangia*）が発見されています。今回、これらに加え、新属新種のオヴィラプトル科の恐竜がこの南雄層から発見され、これをフアナンサウルス・ガンジョウエンシス *Huanansaurus ganzhouensis* と命名しました（図1, 2）。



図1：中国江西省の位置（左上）と新属新種のオヴィラプトル科恐竜が発見された場所（★）

私たちによる系統解析の結果、フアナンサウルスは、インゲニア亜科ではない、オヴィラプトル科であることが判明し、さらにモンゴルから発見されているオヴィラプトル科の恐竜であるシチパチ *Citipati* に近縁であることもわかりました。

この研究成果により、江西省から5属、広東省から2属と、中国南部（江西省および広東省）はオヴィラプトル科が世界で最も多様化し栄えた地域であることが明らかになりました。しかし、今回発見されたフアナンサウルスは、これらのどのオヴィラプトル科にも近縁ではなく、むしろそこから3000km北に位置するモンゴルのシチパチに近いという驚きの結果でした。また、これら7属は、3つのグループに分かれ、それぞれ異なった下あごの形をしていることから、食性を変えることで同じ地

域に棲んでいても競争を最小限にし、多様化した可能性が考えられました。オヴィラプトル科は、白亜紀末（カンパニアン～マーストリヒチアン）になると、このように食性を微妙に調整することにより、多様化を成功させ、アジア広範囲に生息ができたと考えられます。

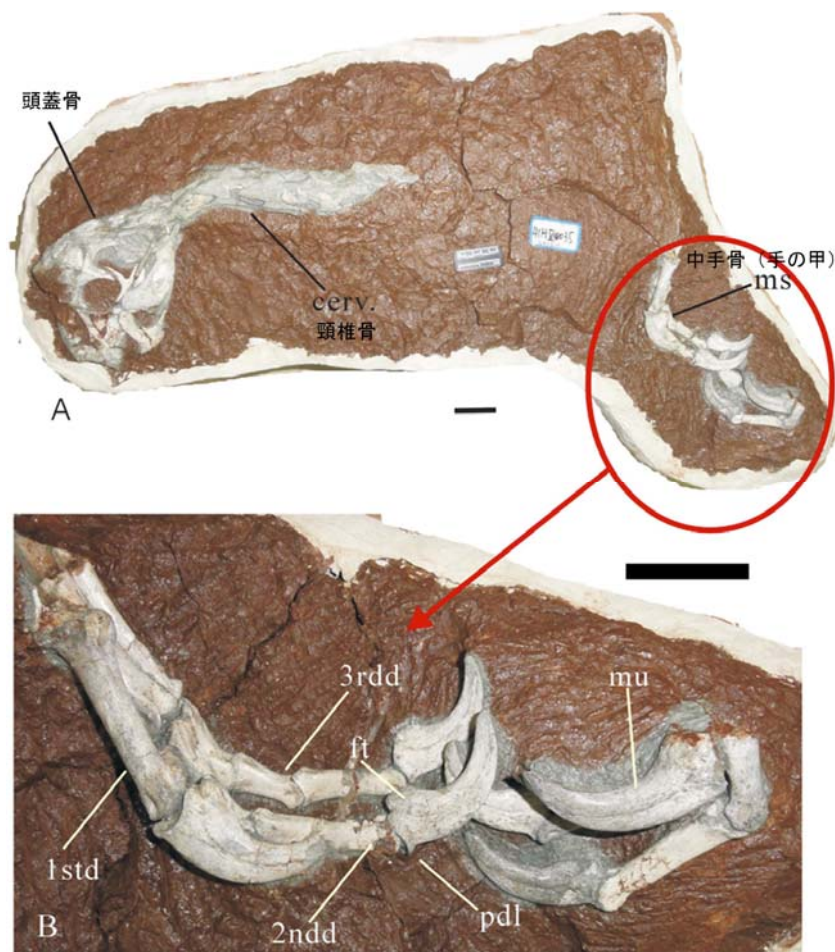


図2：フアナンサウルスの標本：(A) 全体の写真，(B) 手の写真



図3：フアナンサウルスの復元画（服部雅人氏提供）

今回の研究は、中国を中心に、日本・韓国・スウェーデンの国際研究チームによって研究が遂行されました。また、第一著者の Junchang Lü と Yuong-Nam Lee は、北海道大学総合博物館の元特任教員です。

#### お問い合わせ先

所属・職・氏名：北海道大学総合博物館 准教授 小林 快次（こばやし よしつぐ）  
TEL: 011-706-4730 FAX: 011-706-4730 E-mail: ykobayashi@museum.hokudai.ac.jp